

2012年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます

教室だより 7月号



公文式本市場教室 火・木 3~7時 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 161-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯7メール:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

反復練習をするのはなぜ?

木々の緑も深みを増してすっかり夏めいてまいりました。7月の異称、文月(ふづき・ふみづき)は、短冊に歌や字を書き、書道の上達を祈った七夕の行事にちなんだ「文披月(ふみひらきづき)」が転じたという説が有力とされています。当時の方たちはきっと、短冊に書く字を何度も練習したのでしょうね。

公文式も同じ教材をくり返し学習をしながら、先の段階へ進んでいきます。これは、その段階の学力をしっかりと定着させるとともに、「先に進んでも困らずに学んでいける学力」をつけているのです。反復練習が必要かどうかは、各教材に設けられている「標準完成時間」を参考にして判断しています。この「標準完成時間」は、「だいたいこの時間内で100点が取れば、先の段階に進んでも大丈夫」と考える、多くの生徒の学習状況を分析して導き出した公文式独自のものです。

お子さまには、同じ教材であっても「2回目は、1回目よりスラスラできて気持ちいい」「2回目のほうが、初めのときよりよくわかる」といった、くり返し学習の楽しさも実感していただきたいと思っています。

公文式の創始者・公文 公(くもん とおる)先生の言葉より

* “ちよūdの学習” でどの子も伸びる

古い話になりますが、私が中学生のころには、体のサイズにちよūdいい服や靴は注文しなくては手に入らないものでした。今では種類やサイズが数多く揃って、わざわざ注文する必要もなく、いい時代になりました。

ところで教育についてはどうでしょうか。教育も服や靴のように、時代が進んで、子どもたちにちよūdいい学びやすい環境になったでしょうか。公文式学習は、その子にとってのちよūdの学習をコツコツと積み重ねていくことによって、着実に力がつき、能力が引き出され、その結果として進度が伸びていきます。それが本来の可能性の追求ということであって、自分に本当の力がついてきたことは誰より本人が知っていることなのです。

子どもは誰にでも可能性があり、向上したいという心を持っています。きっかけと環境さえ作ってやれば、自発的に自分の能力を伸ばそうとするものなのです。ちよūdの学習を真面目にコツコツやっていたら、どんな子でも進度は伸びていくものです。

2012年 7月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
1	△	3	△	5	6	7
8	△	10	△	12	13	14
15	16 <small>海の日</small>	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	△	31				

本市場教室日□

横割教室日△

今月の「ことわざ」

とんびにあぶらあげを

さらわれる

食べようと思っていた油あげを、とんび(とび)に横取りされてしまう。自分のものになりかけた物を思いもよらないところから横取りされることのとたとえ。

「あとで食べるつもりだったおかしを妹に食べられちゃった。とんびにあぶらあげをさらわれるとはこのことだね。」
〜もん出版「ことわざカード」より〜

様

【第16回】公文式学習法 10の効果

7、授業がよくわかり、学校が楽しくなる。

公文式の特長のひとつに、学校と全く同じにはしないということがあります。

教育とは学校と家庭の両方でするものであり、学校に全てを任せればよいというものではありません。

そして、家庭での教育は学校の成績をあげるためのみにあるのではなく、我が子の将来の人生を見ずえて、必要な能力を高めておくために行われるべきではないでしょうか。

大学受験を例に考えてみましょう。小・中学校の成績がいくらよくても、それだけでは大学には入れません。

高校へ入ってからが問題なのです。また、受験する大学・学部を選ぶときには、自分の将来の進路をある程度決めていなければなりません。将来の進路を最終的に自分で判断すべき高校時代にこそ、勉強はもちろん、十分な読書やクラブ活動、旅行、社会奉仕など、いろいろなことを経験させてあげるべきでしょう。

つまり、わが子に楽しく豊かな高校生活を保障するためには、高密度でスピードも速い高校の授業に、何とかついていける学力をつけておくだけでは不十分なのです。余裕を持って学校生活をおくれるだけの十分な学力を、それ以前につけておく必要があります。それには、学校の授業と同じことをやるのでは不十分です。

ですから公文式は、特に、小学校・中学校相当の教材では、内容を精選して、高校・大学で実際に必要とされる力を養成する基盤づくりとなる要素だけにしぼっています。それが数学では高度な計算力であり、国語、英語では長文読解力です。あれもこれもとやるわけではないため、公文式を宿題をしっかりとこなして、一生懸命続けていけば、

どんどん学年をこえて進み、たとえ授業を聞かなくてもわかるくらいの基礎学力が身につけてきます。

そうなったうえで授業を聞けば、らくに理解できて、楽しくないわけがありません。

それに公文式は、学校で習うことのすべてを先どりするわけではありませんから、学校の授業でも新たな発見があります。公文式で学年を大きくこえて進んでいる子どもたちは、学校が大好きです。

決して、学校や友達をバカにしたりはしません。

家庭学習の本分に徹した公文式を続けることで、小学校から大学まで、楽しく有意義に学校生活をおくることができるのです。

8、青少年の非行を防止する。

公文式の教材はもともと、高校・大学で「よくできる」ようになることを目指して作成されていますから、高校相当の教材のほうが、下の教材よりも多くの字習要素を網羅しています。

しかも、それらは少しずつスモールステップでレベルアップしていくように配列されて、くり返しをまじえながら順序よく学習していけるようになっています。特に、国語と英語の教材は、漢字や単語や文法にとどまらず、一般にはなかなか力をつけにくいと言われる長文読解力をしっかりと育てます。その結果、必要なときに必要な本の内容が読みとれる力を養い、生き方や人生、社会を正しく考えることができます。いわゆる一流大学の国語と英語の入試問題は、大部分が長文読解ですが、それらを解ける力も養われます。

また、成績不振の中・高生にも、公文式は最適です。

かれらがわからなくなったのは、この1～2年の授業内容に原因がある場合より、

小学校でマスターすべき段階に根があるケースも多いのです。

例えば、九九があやふやな子どもに、中学生だからという理由だけで方程式の解き方を教えようとして、どんなにいていねいに教えても、なかなからくに解けるようにはならないでしょう。

その点、公文式は、学年や年齢にこだわらないで、その子どもがらくにできる、

ちょうどの段階から学習を始め、ちょうどのレベルを少しずつ高めながら学習を続けますから、必ず学力を向上させることができます。

こうして子どもたちは、まず公文式学習が好きになり、やがて学校の授業もわかるようになって、学校が楽しくなってきます。

また、「できた!」という成功体験を持たせることは、人間形成のうえで非常に大切です。

自分のしたことが人から認められ、高く評価されたということなのですから。

それで子どもは充足感を持ち、「よし、もっとやろう」という意欲を持つようになってきます。

勉強に興味と意欲を持ち、学校が好きになった子どもは、そう簡単に非行の道へ誘惑されることもないでしょう。

非行防止には、まず学力向上が第一です。